

てんてい新聞

78.3 No.249
 発行市岡田出
 責任 0883-88-5292

そびぬく

一月末から、再び雪も降り、マイナス十五度前後になつたりして、気温の低下が厳しかつた。二月、道路も氷つてしまひ、氷柱の上を走っている様で、気がぬけませんでしよ。

そびぬく。寒かつたね。三月近くになると、朝夕は冷え、この日中は空気がかめつてきましたよ。そびぬく。春近しだよね。軒の氷柱の水滴さささ、感じ方が違ってくる。

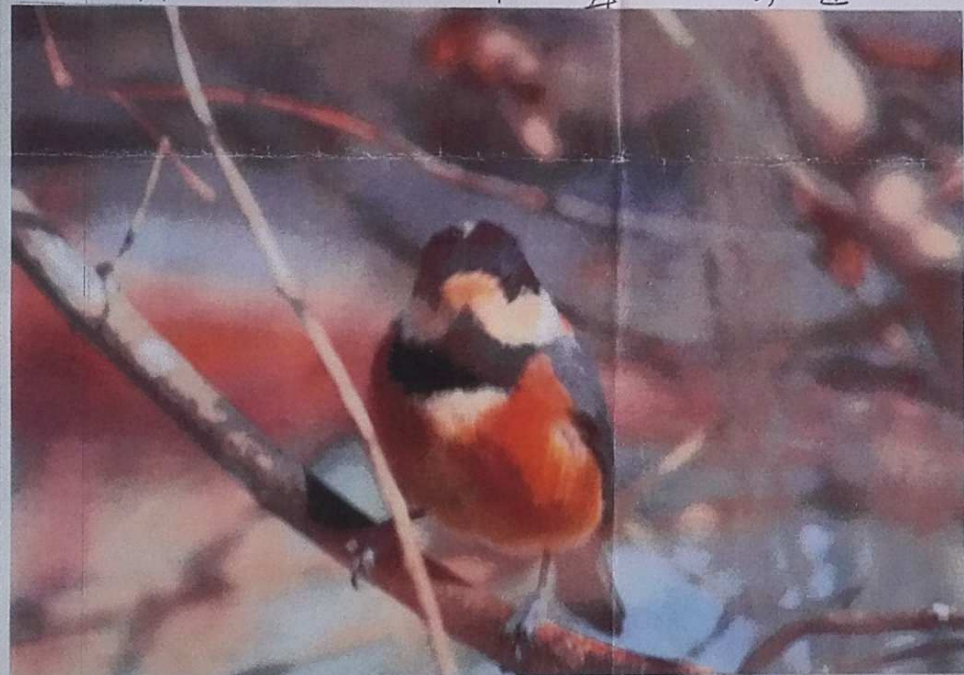
小さな虫が飛びはじめ、小鳥にその囀りも高く、多くなつてくる。クモの糸が朝日に下る。穴の春さる暖かい。冬の寒さが厳しかつた分、春が待ち遠しい。

ちよつと温度があがまじげで、気が持がウキウキ、ワクワクして来る。やっぱり春はいいよね。

そびぬく。そびぬく。春は嬉しいよね。雪も何回か降りましたが、カマキリの卵が予測した様に量的には少なかった。すごい能力だ。そびぬく。また、梅の実が多くつくし年の冬は寒いしとの言ひ伝え。見事にあつはまり大変温度の低下が、何日も続き、あつちやつで、水で苦勞させられる様です。やっぱり、冬は大変です。そびぬく。

福寿草をよく目にする様になつて、フキノトウも、雪が消えると言を、出て、鹿より先に食べました。やっぱり、春の山菜のことばかり、春の山菜は、つまりねらそびぬく。

こいから、タラの芽、ウド、コシラブ、ウルイ、コゴシと、おまの念材ばかりで、嬉しい限りです。



ヤマガラ 山雀にまなぶ

枯枝に、ニカニヤリ、ゴを刺しておくと、ヒョドリやメジロがすぐやってくる。時に冬場はよくやってくる。家の近くで、もとも人に近寄りくるのが、山雀(ヤマガラ)です。昔から、おみくじを引く小鳥として祭りなど目えを、おぼえて、いそいでいる。このヤマガラ、ヒマワリの実が好物。エサ場に置くと、すぐに数羽がやってくる。上下肉係がある様で、力が強いので、先にヒマワリを取りに来るが、手のひらから持て行くのは、力が弱いので。強いの、ひかか手からは持てかたない。に、小鳥のうちなど生物は、一人おめはしません。そんなのはないよつです。お互いに助けあつて、よくなる様で、知恵が、